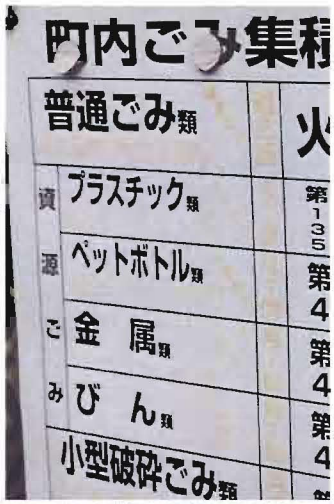
コミュニティくさつ　２０１１年　冬号（通算９２号）　編集発行　公益財団法人草津市コミュニティ事業団　URL　http://www.kusatsu.or.jp/

市民がつくるまちづくり情報誌 コミュニティくさつ

2011年 冬号



分別、大丈夫ですか。写真はゴミの出し方が変わる前（10月以前）のものです。

分別（ふんべつ）をもってゴミの分別（ふんべつ）

草津のゴミ事情を知ろうじゃないか

今号のイラスト

絵：大村恵

もくじ

②③　私のゴミよ、どこへいく!?
　　クリーンセンター見学
④⑤ 道理を知れば、ゴミ出しが“わかる”“かわる”
⑥⑦ 私の町でできることを探してみよう
　　他の町の取組みからヒントを探す
⑧⑨ ゆっくり草津街道物語⑮
　　賑わいと静けさ「本陣・東海道②」
⑩　俳句散歩「冬」
⑪　ええやんご近所ライフ④
　　まちを元気にする仕掛けは共通の話題にあり
　　皇帝ダリアのお話
⑫　熊谷栄三郎の徒然草津④「イナゴ」他

写真　大條紘史

クリーンセンター見学

私のゴミよ、どこへいく!?

ご承知のとおり草津市では10月からゴミの出し方が変わりました。「ごみが集積所に残されてしまう」「唐突だ」「分別方法がわからない」「どうして変わったのか」…。市内の各地で戸惑いや苦労、ときには厳しい声も飛び交っているようです。皆さんの地域ではどうですか。

本誌の編集会議でも、この話題で持ちきりです。「分別方法が変わった」といわれても、慣れたものを変えるのは大変。「何故、変わったのか、何をどうしたいのか」といった部分が判らないと、自分の中で判断が難しいという意見から、「クリーンセンターに直接聞いてみよう」ということになりました。

2日でいっぱいになるゴミたち

クリーンセンター入口の受付前は大きなスケール、つまり車の体重計があります。入ってきたときと出ていくときの差が持ち込まれたゴミの量となるわけです。ちなみにゴミ収集車が1回で持ち込むゴミの量は2～3000kgになるとか。

さてこの大量のゴミ、焼却ゴミはまず「ごみピット」に溜められます。縦7m・横18m・深さ8mという巨大なピットは圧巻です。約300t入りますが、ここを満杯にするのにセンター開設当時は3日かかったものも今では2日、連休明けや正月明けにはわずか1日です。このピットでは大切な役目があります。それはクレーンを使ってのゴミのかくはん作業。ゴミは季節や天候、出し方で水気の量などが違い、そのまま焼却すると不完全燃焼を起こしてしまうので、かくはんしてゴミを均一な状態にするのです。とても大切なかくはん作業は3交代で24時間続けられます。

あのダイオキシンはどうなった?

センターの焼却炉は全部で3炉。うち常時2炉が稼働しています。先の工程で均一な状態になったゴミは約900℃で焼却されます。この温度がポイントです。少し前に話題となったダイオキシン。この発生を防ぐには800℃以上の高温で安定して焼却しなくてはいけません。だから不完全燃焼させないための先のかくはん作業が効いてくるわけですね。温度を下げてはいけないので月から土曜日まで24時間、火を消すことはありません。国で決められた排出ガスに含まれるダイオキシン類の基準値が5ナノグラムなのに対し、センターでの昨年度の測定値は0.01～0.06ナノグラムとなっています。この安心できる数値も、焼却炉の性能だけでなく、職員さんをはじめ多くの人の努力の賜物でもあるんですね。ちなみに「ナノグラム」とは、1gの10億分の1です。

24時間続く、かくはん作業

燃やしても終わらないごみ

もう一つ知って欲しいこと。それは「焼却ゴミは燃やしても終わらない」こと。何のことだかわかりますか。そう、灰が残るのです。クリーンセンターの焼却炉では2炉で1日に150tのゴミが燃やされます。そのうち13%、20tもの灰が残ります。残った灰はどうするのでしょう。

草津市内には埋め立てる場所がないので、処分手数料、運搬料を支払って大阪湾神戸沖まで運んで埋め立てているのです。「大阪湾フェニックス計画」に基づいたこの埋立地は約88ha、甲子園球場23個分にもなる広さですが、平成39年には満杯になる予定です。ここには草津市のように埋立地を持たない自治体をはじめ、近畿2府4県の168の自治体か

ら灰などが運び込まれていることを知って納得です。ちなみにここに埋め立てるために必要な経費はゴミ1tあたり5250円。草津市で年間に排出される灰は約4800t。ゴミ処理に関しては国や県からの補助は一切出ないので、計算の得意な人は、私たちの税金がいくら投入されるのかを計算してみるのもいいかもしれませんね。

ズバリ！ ゴミの減量

ここまで読んで勘の良い人ならお気づきかもしれません。クリーンセンターは最終処分ができない中間処理施設であること、そして今回のゴミの出し方の変更の目的がゴミの減量であることを。草津市、いやいや私たち市民一人ひとりに最終処分場まで行かないようゴミを減らしていくことが喫緊の課題として求められているわけです。でもどうすれば良いのでしょう。暮らしを見つめ直してごみ自体を減らすこと（リデュース）、分別して再資源化（リサイクル）したり、再利用（リユース）することなんですね。

クリーンセンターは中間処理施設であることは既に紹介しました。では焼却ゴミ以外はどのように処理されるのかも簡単に紹介します。

まずは空き缶です。強力な磁石でスチールとアルミに分けた後にプレスして、それぞれブロック状の塊にしてから次の工場へと運ばれます。そこで新しいアルミ製品や鉄製品として生まれ変わります。

次にペットボトルです。これも圧縮してブロック状にして出荷されます。次の工場で「繊維」「ペレット」「ペットボトルフレーク」の3つの形状になり、リサイクルの原材料となるわけです。私たちには家庭から出す段階で、

①ラベルをはがす
②キャップを取る
③中身を洗う

ことが必要になるのでお知りおきを。

さてプラスチックです。プラスチックには再生できるものとできないものがあります。プラマークの付いた汚れていないもののみが再生へと回ります。それを職員の皆さんが手作業で選別しています。再生できるものは圧縮して固め、300kgの塊にして次の工場へ運ばれます。そこでまたプラスチックの原料になったり、ガスや石油製品の原料にリサイクルされるわけですね。

センターに集まるゴミ・ゴミ・ゴミ。
一人が一日に出すゴミの量は約900g

お前はどうだ？

所長の長（おさ）さんは言います。「3R（リデュース、リユース、リサイクル）の話が出ましたが、中でもゴミを減らすリデュースがとりわけ大切です。その上で出てしまったゴミはリユース、リサイクルする。

昔の買い物は野菜や魚などの包装は新聞紙で包む程度。豆腐なんかは鍋を持って玄関まで買いに出たものです。今、振り返ると、ゴミの出ない実に賢明な暮らし方です。でも、そんな時代に戻ることができない以上、いかにゴミを出さないようにするのか、常に意識し皆で考えていかなくてはいけません。私たち行政ができることもあれば、市民の皆さん一人ひとりにしかできないこともあります。次の世代、その次の世代と、これからを生きる人たちのためにも、今を生きる私たちができることから動いていく必要があります。」と。

目の前に広がる私たちのゴミを見ながら話を聞いていると、「お前はどうだ？」とゴミに問いかけられているような気持ちになるから不思議です。

10/1　ゴミの出し方が変わりました

道理を知れば、ゴミ出しが“わかる”“かわる”

10月からゴミの出し方が変わりました。この目的はゴミ、とりわけの最終処分しなければいけないゴミの減量にあること。その方法としてゴミ自体を減らすことと、分別して再資源化（リサイクル）することが私たちに求められていることは既にお話しました。このことを念頭に、今回の変更についてのポイントをクリーンセンターの平中さんと前田さんにお聞きしました。

昨年（平成22年）度の草津市のゴミの量は39,863t。単純に一人一日当たり約900ｇのゴミが出る計算になります。そのうちの87％が普通ごみとして焼却されていました。でも灰が出ることをお忘れなく。

さあ、始めましょう。今回の分別で戸惑う人が多いプラスチック。まずはここから。

プラスチック

プラスチックはできるだけ再資源化を目指します。でも再生できないプラスチックもあります。ポイントはプラスチックごみの6割が容器や包装のためのものだということ。これを再資源化します。

基本的にはプラスチックを再生するコストは新たに生産するより高くなります。そこで国が「容器包装リサイクル法」をつくり、容器や包装にプラスチックを利用する企業にリサイクルの費用を拠出してもらうとともに、引き取り先も国が準備することになっています。

今回「プラスチック」から「プラスチック製容器類」に変わりました。今までは「プラスチックごみ」の中に再生にふさわしくないものが混じっていて、クリーンセンターで再生に回すものとそうでないものを職員さんが手作業で分けていました。今回の変更でこの選別コストが減ることになるんですね。

「プラスチック製容器類」として出すのは次の2つの条件を満たすものです。たったこれだけ。覚えてくださいね。こうして見るとこのプラマーク、あちらこちらに付いてます。小さかったり、一番外側の容器や包装にまとめて描いていたり。よ～く見てください。

プラスチック製の容器や包装材

①プラマークのあるもの

②汚れていないもの

（軽く洗って汚れが落ちればＯＫ）

プラ

焼却ゴミ

たとえプラマークがついていても、レトルトカレーの袋など汚れているものは再生できません。焼却ごみに出しましょう。

でも「プラスチックを燃やしたらダイオキシンが出るじゃないか！」って声が聞こえてきそうです。クリーンセンターができたのは昭和52年。清掃工場として誕生しました。当時はプラスチックを燃やすと塩化水素が発生することから、プラスチックを燃やさないようにしてきました。

平成に入りダイオキシンの問題が大きく取り上げられるようになりました。草津市では平成6～8年の施設の大規模更新の際に排ガス処理施設も当時の最新式の設備を導入するなど、ダイオキシン対策をされています。ダイオキシンを発生させない仕組みは先に書きましたね。

ここで「汚れたプラスチック製容器が焼却ごみなら、これまでより焼却ごみが増えそう」と思った人、するどい感覚です。ポイントは古紙類にあります。

古紙類

今までは「普通ごみ」として出していた新聞・雑誌・段ボールなどが「古紙類」として分別されることになりました。でも多くの人は「町内の子ども会や老人会などの回収に回していたのでは…」と思われるかも知れません。それでいいんです。こうした地域団体による回収があるところは引き続きそちらで出してください。ない場合は「新聞・広告」「雑誌・雑紙」「段ボール」それぞれの回収日に出すことになります。子ども会・老人会などの団体が持ち込む古紙は年間約４０００ｔにもなります。

古紙類でのポイントは、聞きなれない「雑紙（ざつがみ）」です。紙袋・資料・ティッシュ箱・菓子箱・ＤＭの中身などがこれに当たります。今まで「普通ごみ」として焼却されていました。まだ雑紙の回収をしていない地域もたくさんあるので、「焼却ごみ」でなく古紙類として出します。

汚れたプラスチックが焼却ごみになっても、それを上回る雑紙を分別することで全体として焼却ごみが減ることになります。

そうそう、段ボールは断面が３層になっています。そうでないものは雑紙ですよ。

分別（ぶんべつ）をもってゴミの分別（ぶんべつ）を

余談ですが、「ごみを分別する」というとき、「ぶんべつ」か「ふんべつ」か、と一瞬悩んだことはありませんか。私だけかも知れませんが。

もちろんこの場合は「ぶんべつ」です。ちなみに「ふんべつ」を辞書で引くと「道理をわきまえていること」とあります。さらに「道理」を引くと「物事の筋道」とあり、「その事がそうであるのはこの原因・理由からだったのか、とわかった時に使う語」と続きます。

今号の企画を練った編集会議で「どうして分別方法が変わったのか、その理由が分からない。理屈が解らないので自分の中に判断軸をつくれない」といった言葉を思い出しました。この取材のきっかけとなったわけですが、実際にごみの現場を見て、ごみの行方や現状を聞き、「道理」がわかりました。まさしく「どうりで～」です。

「ふんべつ」と「ぶんべつ」―。

２つの言葉が辞書の中で仲良く隣り合うのは音の並びだけではないな、と妙な納得をした次第です。

小学生もごみの分別を習っているそうですが、私たち大人は、大人らしい分別をもって、ごみを分別したいものです。問われているのは私たち一人ひとりのモラルかもしれません。

取材後記

甲子園のグラウンド部分と同じくらいのセンター、まず綺麗だったのにビックリ。とても市内中のゴミが集まるようには感じられません。匂いもほとんどしませんでした。

私たちの暮らしで出てくるゴミは避けられない問題。私たち住民の心の中にも「逃げ」や無関心がなかったかと言えばウソになりそうです。 10月からゴミの出し方が変わりました。 あちこちの地域で混乱している声を聞きます。私の町でもそうです。私たちの心の中の 「逃げ」 が混乱の一端だとしたら、 センターや市はもっと積極的に説明に出てもらいたかったなと思っています。もちろん少ない人員のなかで職員の皆さんが一生懸命に説明に行かれたことは推察できます。

でも私は今回の取材でたくさんのことを知りました。ここは中間処理施設であること、 燃やした後のゴミもまだ先の行き先があること、 プラスチックや空き缶の梱包状況やその行方…私の友だちは、 まだプラスチックごみでフラワーポットをつくってると思っています。 先輩たちはプラやナイロンを燃やすとダイオキシンが発生すると思っています。そう、やっぱり住民は知らないのです。

分別方法の変更も 「これは何、 それはそこ」 といった暗記的な説明では心に響かないのかもしれません。「将来こうなってしまうから。こういった理由があるから。これからはこう分別します」 といった 「なぜ？」 の部分を知ってこそ心に響いてくるのではないでしょうか。現状を見てもらうのが難しいなら、写真や色々な方法を使いながら心と心の対話をしていかなくては。

センターを訪れ、知らなかったことを知ったこと、職員の皆さんの苦労を知ったからこそ、市にも私たち住民にも「もっとできることがある」 と思った取材となりました。 （大石 昇）

私の町でできることを探してみよう

他の町の取組みからヒントを探す

今回の「ゴミの出し方の変更」が引き起こした地域の混乱と戸惑い。中にはゴミ袋への記名を徹底することにした町内会もあるようです。前頁の取材後記、大石さん（編集ボランティア）の感想にあったように、どうもこれは行政にも、私たち住民にも、もっとできることがありそうです。

では私たちにできることって？そんなヒントを見つけるため、編集ボランティアや市民の方に「あなたの町では？」と聞いてみました。

分別にも楽しさを！

なんと運動会の種目にゴミの分別を取り入れているユニークな取り組みもあります。借り物競走のエコ版と言えばいいでしょうか。借り物の代わりにゴミの書いたカードです。自分が引いたカードを正確にゴミ箱に入れないとゴールできません。

分別の説明を聞くための説明会では、なかなか多くの人に聞いてもらうのが難しい。より多くの人が集まる運動会で、楽しくゲーム性を取り入れるというのも一つのアイデアかもしれません。

また、最近のスーパーでは、食品トレイや牛乳パックを回収してくれるだけでなく、古紙類などを回収してもらえるサービスもあるようです。しかも出した重量に応じてポイントが加算される仕組みになっているので、分別すればするほどオ・ト・ク♪なわけです。しかも曜日に関係なく、回収時間も長いのも魅力。

忙しい人やお得情報に弱い人はぜひ近くのスーパーもチェックしてみてはいかが？

【ポイント】
楽しく知るための工夫。
分別することが楽しくなればシメたもの。

逆の立場になってみる

公営住宅に住んでます。10月の分別変更で時には20袋以上が残っていたことも。仕方ないので今は役員でマスクとビニール手袋をして、分別をし直してます。大変です。間違えたゴミを出した人の特定は難しいし、逆の立場になると自分の出したゴミの中身を誰かにチェックされているのも、いい気はしないですよね。

結局、一人ひとりがルールを守っていくしかないと思います。私も役員として人のゴミを分別しているうちに、分別方法の理解もできたし、「まずは自分がしっかり分別しないと」という気になりました。以前は町内会で回していたゴミ当番を復活する日は近いかもしれません。

【ポイント】
大変さを知ってルールを守る。
ゴミ当番をみんなで回す。

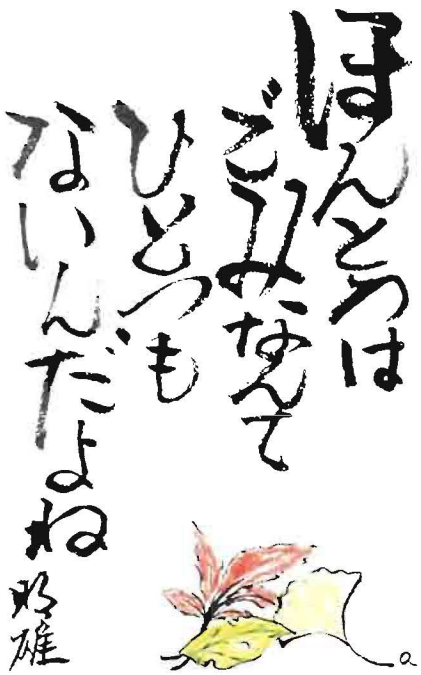
きれいな集積所で抑止効果

駅前のとあるマンションでは屋内にある大きなゴミ集積所に今年の夏、監視カメラをつけました。一部の住民が粗大ゴミなどの収集日を守らないことからの対策でした。が、このカメラが今回の変更で思わぬ効果を出して、ほとんど積み残しされることはありませんでした。

管理人さんは言います。「もちろん掲示板などで周知の徹底は図りました。積み残し数もグラフにして貼りました。10月当初は数件あった積み残しも今ではありません。積み残された場合でも住民さんのプライバシーを守りながら戸別に指導させてもらってます。

気をつけているのは集積所をいつもきれいに整理すること。整理することで、たとえ曜日や分別を間違えても住民さんが気づきやすいし、私たちも見つけやすいですよね。整理された環境を守ることはモラルの低下を防ぐことにつながってると思います。」

【ポイント】
集積所をきれいにすることで抑止効果。
自然と気づいてもらう。



絵と字　中村明雄

情報を確実に届け、 共有する

郊外のとある新興住宅地。 ここ一帯は全戸にケーブルテレビが導入され、テレビを見るだけでなく町内のお知らせなども定期的に音声で案内される仕組みになってます。昔の有線放送をイメージしてもらったらいいでしょうか。

10月以降はこの放送で「今日のゴミの積み残し」がひっきりなしに流れることになりました。「今日、 5つのゴミが収集されていませんでした。 心当たりの方は…」 と流れると、 「私かな？」と思う人が集積所に確認にいくことになります。

「知らなかった」 であれ 「間違えた」 であれ、 収集されなかった人は次回から、 より気をつけることになります。今ではほとんどの人が新しい分別に慣れたみたいで、積み残しもほとんどなくなりました。

【ポイント】
情報を確実に届けて、 みんなで共有する。
「私かな…」 と思ってもらう。

スペシャリストをつくる

とあるマンション管理会社の社員さんに聞きました。 「市内で15棟のマンションを管理しています。学生さんや在住外国人の方が多く入居するマンションが多いですかね。ゴミの分別に関しては市からの書類を、 掲示板で貼り出すぐらい。 特に指導するといったことはしていません。それでもほぼ9割の人がゴミの出し方を守ってくれます。残念なのは、 残りの1割の人たち。

そこで、 関連する清掃会社から、 一人のおじいちゃんを派遣してもらっています。 75歳になるこのおじいちゃんが、 10棟のマンションを随時回って分別できていないゴミの分別をし直してくれています。 しかもボランティアです。 夏の暑い日も汗をかきながら分別してくれて、本当に頭の下がる思いです」

【ポイント】
「この人に聞けばわかる！」
スペシャリストをつくる。

（案内）草津市観光ボランティアガイド協会・石田はま子

第15回 賑わいと静けさ ～本陣・東海道②～

ゆっくり草津 街道物語

前回に引き続き草津宿の今昔を訪ねる街道物語、今回は草津宿街道交流館からスタートです。

明暗わける関ヶ原の将

ここに街道交流館が建ったのは平成11年、この場所には以前、谷口医院という病院がありました。明治26年に開院した谷口医院、中に入って目に飛び込む大きな時計とその側にあった薬を渡すための窓が地元の人たちの記憶に残っています。

さらに進むと常善寺です。関ヶ原に勝利した家康がここに宿陣し、大津城へと向かいました。また、敗れた石田三成が護送される際につながれたといわれる「治部つなぎの松」がありました。秋の「街あかり・華あかり・夢あかり」では、国重要文化財に指定されている木造阿弥陀如来・木造両脇侍像が公開されるので、ぜひご覧あれ。

常善寺の向かいとなる「京屋」では氷とうどんを扱っています。江戸のころは「京屋久兵衛」という旅籠でした。今も夏になると麻に包んだ氷をバイクで配達する姿を見ることができます。明治33年開業の駒井眼科には、玄関の左側にヴォーリズが設計したといわれる建物がありました。その後、立木神社内に移築され草津青年会議所の事務所として使われていましたが、その建物も今は見ることができません。

白と黒のコントラスト

白壁と黒い杉板のコントラストに思わず眼を奪われる建物は太田酒造。趣きがあります。この酒蔵で造られる酒は草津を代表する名産品の一つ。江戸時代、宿場の役人だった太田氏は代々「亦四郎」を名乗りました。酒造業を始めたのは明治のことです。太田氏の祖先、あの太田道灌の名にちなんだ酒「道灌」は有名ですね。

山王小路を歩くと太田酒造の白壁

白壁沿いの路地は山王小路といい、暗渠となっていますが、下に山王川が流れています。この小路と東海道が交差している十字路を良く見てください。少し歪んでいます。これは「筋違い」といい、宿場の防御のため、わざと見通しを悪くしたものです。

筋違い。宿場の防御のため、見通しが悪くなっている。

太田酒造の向かいには「人馬継立」を行った問屋場がありました。問屋場には人足百人・馬百匹を常備し、次の宿場の守山や石部・大津、矢橋の舟場まで人や物資を運びました。荷物の重量を量り運賃を決めるため、貫目改所も置かれていました。

山王小路を込田公園に向かって歩を進めると右に見えるのが正定寺です。草津宿にあった二つの本陣である七左衛門本陣と九蔵本陣の菩提寺で、ちょんまげのような形の石塔があります。この形は江戸時代の武士の墓石の特徴です。

「あ」と「ん」の猿

東海道に戻り、立木神社に向かうと、すぐに出てくる建物が「八百久」です。江戸時代から「八百屋久兵衛」という雑貨商を営んでいました。ささら戸・店のつくり、坪庭などなつかしく趣のあるお店で、昭和3年の建物は国の登録文化財

（写真）　大條紘史

屋根の上の猿は「あ」と「ん」

にも指定されています。近辺には連子窓・虫子窓や見越しの松がある家なども見られ、道行く人の目も楽しませてくれます。

八百久の横の路地に入ってみましょう。日吉神社です。軒先の瓦には「あ」と「ん」の形相の猿がのっかっていますよ。傍には和宮降嫁の折にここに移されたという山王地蔵尊が地元の人々によってまつられています。こうして案内されないと見つけられないくらいの小さな神社とお地蔵さまです。路地の楽しみ方ですね。

さらに立木神社に向かって歩きます。万善呉服店は江戸から続く呉服屋です。「和服と言ったら万善」と言われたぐらい草津では名の知られた呉服屋でした。向かいには野村屋がありました。古い看板が印象的だった野村屋も江戸から続く旅籠でした。今は建物もなくなってしまい、草津の歴史がまた一つ消えてしまいました。

朱色の太鼓橋　立木神社

交差点を渡るといよいよ立木神社です。伯母川に架かる赤い橋からは「伯母川橋梁礎石」と刻まれた大きな石が見えます。伯母川は「宮川」「志津川」とも呼ばれ、朱色の太鼓橋が架けられ春には川面に映る桜が見事です。うっそうとした木々に囲まれ、静寂の中に建つ立木神社は奈良・春日大社の祭神と同じ「武甕槌命」です。戦の神、旅行の神でもあるので参勤交代のときにもお参りをしたとか。境内にある石造りの道標は徳川5代将軍綱吉の頃に建てられ、県内でも最も古い道標といわれます。

春日大社を目指し、常陸国を出発した鹿島明神がこの地に立ち寄った際、柿の鞭から根が生え見事に成長したとの云われから、御神木は柿の木とされています。また県の指定記念物であるウラジロガシは樹齢３００年といわれています。一見、幹が枯れてしまったようですが、よく見ると根元の方からちゃんと新しい芽が出ているのを見つけ、ホッとさせてくれました。

市内6か所で行われるサンヤレ踊りの一つ、矢倉のサンヤレは矢倉市民センター隣のお旅所を出発し、この立木神社に奉納されるものです。矢倉の居住組と呼ばれる人々によって受け継がれる矢倉のサンヤレ踊りは1年おきに奉納されます。

草津を凝縮　込田公園

立木神社から東海道より一本西側の御除け道を、今度は本陣方面へ帰ります。しばらくＪＲの線路と平行して歩いていると、水路の先にレンガのアーチ橋が掛っているのが見えました。橋の上を通過するＪＲが対称的な印象を持ちます。こんな小さな発見をできるのも、ゆっくりと路地を歩く楽しみでもあります。

御除け道から商店街へ出る路地にひっそりとしたお堂。蛇の目講本堂です。江戸時代の終わりから昭和初期にかけて行者講が広まり、盛んに行われました。ひっそりとたたずむこちらの蛇の目講本堂では、毎年6月に大峰山へお参りをされています。本堂には役行者と不動明王像が安置されています。

市役所の隣、込田公園に来ました。江戸時代の絵図には込田池という池が描かれています。この込田公園と市役所あたりですから、池としてはかなり大きなものです。市役所側から入る冠木門をくぐると、池や小川が随所に見られ、遊びに夢中になる子どもたちの声が響いています。この池や川をよくご覧ください。実はこれ、萩の玉川・十禅寺川・矢橋の港・街道筋の松など草津の名所を模しているのです。先ほどとは反対の門の傍らに説明看板もあるので読んでみましょう。込田公園、まさに現代と過去を行き来する宿場町の公園です。

鳴らない鐘と忠犬物語

この門から再び、東海道に向かうと真教寺があります。ここに来たら、まず鐘を見てください。お気づきですか、この鐘はコンクリートです。もちろん鳴りません。戦時中、各家庭から金属類を供出したのは有名な話です。お寺の鐘も例外ではなく、真教寺の鐘も供出されました。主人のいなくなった鐘つき堂はバランスが悪いため、コンクリートの鐘が吊るされたわけです。無言のコンクリートの鐘

無言の鐘は平和を訴えます

が、私たちの胸に平和の尊さを響かせてくれているようにも思います。

それと境内にひっそりと佇む碑。「忠犬妙雪の碑」です。明治32年、寺に拾われた犬の「しろ」が、寺の火事を知らせ大事に至らなかったことに感謝し、住職が愛犬のために建てたものです。タロにジロ、ハチ公と名犬・忠犬の話は色々とありますが、ここ草津にも忠犬の話があったとは驚きです。

見えなくなったものたち

今回も路地に入り小さな発見の連続でした。でも逆に最近までありながら見れなくなったものもありました。谷口医院や中にあった大きな時計、野村屋の看板、立木神社にあったヴォーリズの建物に込田池…人々の記憶に深く刻まれながら消えていったものたち。見えなくなったものたちが、そこに確かに存在していたことを確認する歩みとなりました。消えてしまった土地や建物の記憶を補ってくれる人々の記憶。そんな記憶もいつかは消えていくのかと思うと、少し切なさもよぎる街道物語でした。

今回も誌面がなくなるようで恨めしい限りです。次回はこの続き、料亭「魚寅楼」あたりから始めることにしましょう。お楽しみに。

俳句散歩　冬

温暖化による暑さと節電のために、「暑い暑い！」と嘆いていたのがつい先日のように感じます。しかし、師走に入り叡山や比良山系は白くなり、いよいよ冬将軍の到来です。今日は冬にちなんだ芭蕉の俳句を読んでみましょう。（橋詰辰夫）

あら何共（なんとも）なや
きのふは過て　河豚汁（ふくとじる）
芭蕉

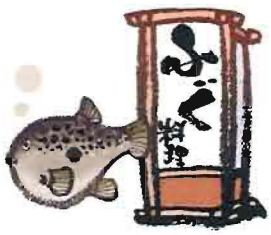
今では老人、子どもでも安心してフグを食べることができます。忘年会シーズンともなればあちこちでフグの鍋をつつきながら酒を飲み歓談します。

芭蕉が活躍した時代には命の心配をしながらも、美味しいフグを食べたのでしょう。フグを食べ一晩寝て目覚めたら、「生きていた！」と安心すると共に、昨日はあんなにびくびくしながら食べたのが、なんだか馬鹿らしく思えるな、と自嘲気味の芭蕉です。

「あら何共なや…」とはもともと謡曲に出てくるせりふで、つまらないとか、ばかばかしといった意味ですが、芭蕉は「ああ何事もなかった」とに掛けて使っています。

日常生活でも何かをするとき、必要以上に、はらはらドキドキして、事が済んでみれば、何故あんなに心配したんだろうと可笑しく思えることがよくありますね。

なお当時は、河豚汁と言うと、味噌汁にフグを入れた料理でした。また、「ふくとじる」は俳句特有の言い方です。



年暮れぬ
笠きて草鞋（わらじ）　はきながら
芭蕉

芭蕉は1684年（貞享元年）夏に江戸を出て、関西から大和、吉野を経て大垣、名古屋を通り、9か月かけて江戸に戻りました。時に芭蕉は41～42歳でした。

この旅を元に書いた紀行文が「野ざらしを心に風のしむ身哉」で始まる『野ざらし紀行』です。名古屋から故郷の伊賀上野への途中で年の暮れを迎えました。漂泊の旅の最中で、草鞋を履き笠を着けたままの旅人姿の自分を第三者の目で俳句にしています。人生をかけた俳句のために旅をして、年越を旅装で迎え寂しいながらも、自負とも自信とも、また安らぎとも言える感情が湧いてきたのです。

今年は3月11日の大地震と津波、そして原発事故や各地の大雨や土砂崩れなどが発生しました。加えて経済も世界中思わしくありません。人は時の旅人だと言われますが、残り少なくなった時間を旅する私にも、年の暮れは訪れます。何を着て、何を履きながら年を越えるのでしょうか？多事多難です。

皆さまには、良い年が訪れますように願っています。

文　矢原功

ええやん ご近所ライフ

第4回 まちを元気にする仕掛けは共通の話題にあり

～皇帝ダリアのお話～

紅葉で賑わう行楽地とは裏腹に、人恋しく、ふと考える時間が出来る秋の夜長。
今日は何人の人に出会っただろう。無言でちょこんと頭を下げるのも挨拶だが、よく知っている相手だと必ず言葉が出るし、笑顔も生まれる。
住みよく楽しい元気なまちづくりの原点は「これなんだなぁ」と思う。

私が住んでいる町内は住宅街として開発されて30年を経過した。さすがに定年退職組が多くなり、いわゆる高齢者世帯が年々増えている。その誰もが長年培ってきた豊富な知識や経験を持っているのに、家にじっとしていると個人の財産で終わってしまう。こんな勿体無いことはないではないか。

人と話せば、必ず自分の知らない世界がある。それを共有できれば、どんなに素晴らしいことだろう。多くの人が出会って話し合う機会があれば、共有財産は一気に増えることになる。
「へェ～、こんな人が町内に居たんや！」と目からウロコも。そして、「こんなことやってみようや」と新しい話も生まれる。住民が楽しく出会える機会の一つは祭りだろう。生涯学習だの、人材発掘だのと難しい言葉を使わなくても、それらを超えた即実践の場である。

このようなお互いを知る機会づくりもさることながら、日ごろの出会いを楽しく、元気づける原点は共通の話題だと思っている。それが花のことなら話もなごむ。幸い、私の町内には庭の植木や花を楽しむお家も多い。そこで、今回は最近よく見かけるようになった皇帝ダリアのお話を一つ。

皇帝ダリアはメキシコ原産。竹のように節のある直径10センチほどにもなる頑強な茎（というより幹）を伸ばし、順調に育てば1年で5メートルもの高さになって2階の窓から花を楽しめる。草花の楽しみが終わり、木々の紅葉が始まる11月になって花が咲き始めるので存在感が大きい。花は日本人好みの紫がかったピンク色で、直径20センチ近い。伸びた脇芽からも花を次々に咲かせるので遠くから見れば楠玉のようでもあり、近づけば打ち上げ花火のようだ。一本で凛と立つ姿は威風堂々としており、数本あれば一味違って秋空に映える姿はまさに絢爛豪華である。

降霜前に幹を株元から切り取り、節ごとに切って増やせるので、大勢の方にお分けできるのがいい。そのうえ、翌春には切り株の地際から芽が出るので家の苗はキープできる。私が最初に4本の苗を買ったのが4年前だったが、その分身があちこちで育ち、今では町内だけでも20軒ほどになり、そこからさらに友人に広がり楽しんでもらっています。

「今年は順調に育ってるわ」「ナメクジに芽を食べられたよ」「もう支柱してやろうかな」「今度の台風、大丈夫かなぁ」「えっ、もう咲いたの！」「でっかいねぇ」「うちのも咲いてきたよ」、増えてきた子孫が共通の話題となって話も弾む。

お互いに助け合える隣人の連帯感は、こうした普段からの共通の会話とお互いの顔を知る機会づくりから生まれるように思われる。高齢化が進むと援助を必要とされる方も必然的に増えてくる。地域ぐるみの助け合い（共助）の基盤を固める仕掛けづくりが大切な時代である。

熊谷栄三郎の
徒然草津
つれづれくさつ

第5回 イナゴ

熊谷栄三郎

今年はイナゴが多かった。秋、上笠などの水田沿いを歩くと、草の間から次々にイナゴが飛び出した。とまっている草ごと掌でつかむと、たやすく捕れる。そんなとき出くわした少年らは、私の獲物をのぞき込んで例外なく「あ、バッタ、バッタ」といった。

「バッタと違う、イナゴや。君ら、よう観察せんといかん」と何回教えたことか。ついでに「食うとうまいで。醤油の付け焼きが香ばしくてええ。焼く前に、ふんをすっかり出させるのがコツや」と料理法まで伝授してやった。

食料難だった六十年ほど昔のムラを思い出す。イナゴは、けっこうなおかずだった。

捕るのは子供の仕事で、空の一升瓶を手に田の畦を歩いた。捕ったイナゴを瓶の口から押し込み、親指でふたをしつつ、次の獲物を探した。瓶ではなく、布袋に竹筒をつけたのを持ち歩く子もいた。

そんなイナゴの付け焼きをみんなに食べてもらおうと十一月、わが町の防災フェスティバル・非常食の祭典で出した。この催しは、木の実など自然の恵みを食べて生き抜く知恵を身につけておき、非常時の食料難に備えるのが狙いだ。祭典の趣旨にぴったりだと、町内の年配者らが張り切って捕ってきたイナゴは百匹余り。

当日。会場は雑草や川魚の天ぷらなどを試食する人で大にぎわいとなった。

かまどの鉄板上には、醤油で付け焼きされたイナゴが並び、周囲を少年少女らが取り巻いた。そしてやっぱり口々に「バッタや、バッタ。年寄りはバッタを食べるんか」。

そこで思わず私は叫んだ。「これはイナゴです。バッタもんではありません」。年寄りらは笑ってくれたが、子供らには「バッタもん」という懐かしい言葉が通じなかった

HP「くさつ情報ネット」で身近なご近所の問題を紹介する4コマまんが「くさつがわ家とお隣さん～これって、みんなの問題?」が始まりました。「くさつがわ家」一家を中心に、街の何気ない日常のデキゴトから街の問題として考えていきます。市内在住「まんじゅう」さんの絵による個性的なキャラクターが大活躍します。

この続きが気になったら、下をクリックしてくださいね。

くさつ情報ネット　http://www.joho932.net

編集後記

▼幹線道路の清掃活動をしていて絶えないのがたくさんごみを入れたレジ袋のポイ捨て。心が貧しいね。誰か対策を教えてください（大條）▼草津市民を63年続けても草津のこと知らないことばかり！街歩き楽しかったです。そして草津クリーンセンターのことも。あっそう！へぇ～。これで草津市か！再認識いたしました（大石）▼ゴミ問題大変です。自治会やご近所で揉め事になったりしています。 最後はモラルの問題ですが、 その前に何か忘れている気がするのはわたしだけ？（大村）▼大晦日は灯りを消して、 町中の除夜の鐘を聴きながら3.11の犠牲者に合掌（橋詰）▼「街道物語」取材の11月の末に近い日、 花は少し痛んでいましたが、 マルバルコウソウのコロニーを見ました。やはりというかさすがというか草津川の堤です(中井)▼干し柿がうまくなった。 あとはウラジロ採り。一年が早すぎます。（矢原）▼クリーンセンターの取材をしてから集積所の積み残しのゴミ袋の中身が気になる今日この頃です（荒川）▼食事中の人はゴメンなさい。 ゴミってウンチに似てる。 ウンチと同じで、 ゴミを見ればその街の健康状態が見えてきます（茶木）

あなたの夢を実現したい！そんな助成金です。

まちキラ★プロジェクト100

平成24年度中に草津で実施されるプロジェクトやイベントを助成します。詳しくは公共施設に備え付けのパンフレットか上記HPをご覧ください。（お問合せは下記まで）

助成額　100万円（上限）　採択数　1提案

応募期間　平成24年2月10日（金）必着

市民編集ボランティア募集！

コミュニティくさつ編集部
（公財）草津市コミュニティ事業団内
〒525-0037
滋賀県草津市西大路町9－6（まちづくりセンター内）
電話　（077）565－0477
ファックス　（077）562－9340
メール　com-com@mx.biwa.ne.jp
URL　http://www.kusatsu.or.jp/

再生紙使用
～地球にやさしいまちづくり～